

農業遺産で学ぶ  
「米づくり学習」



カリキュラム案・授業案  
(指導者用)

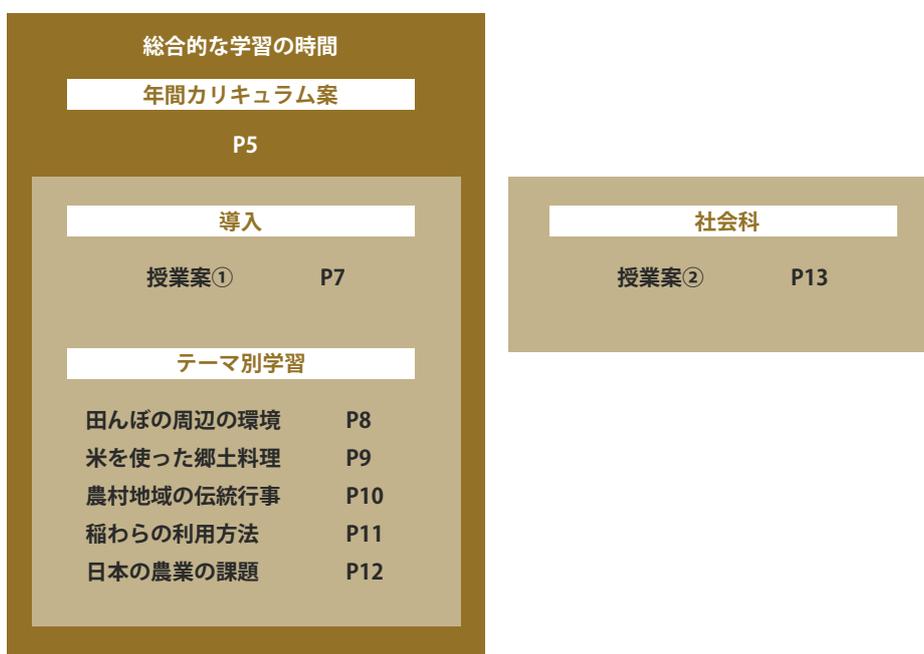
# 目次

---

1	<b>本冊子と動画の紹介</b> 冊子の活用方法の紹介、農業遺産の紹介、動画の紹介	P3
2	<b>年間カリキュラム案</b> 小学校高学年（主に5年生）の総合的な学習の時間に米づくりを扱う場合、農業農村地域の魅力を学べる動画を用いたカリキュラム案を記載	P5
3	<b>総合的な学習の時間〈課題の設定〉での授業案</b> 小学校高学年（主に5年生）の総合的な学習の時間の指導案（米づくり学習の導入） 上記カリキュラム案の導入となる1・2時間目の授業について授業展開の案を記載	P7
4	<b>総合的な学習の時間〈情報収集／整理・分析〉</b> 各学校で重点を置きたいテーマに応じて学習を展開するための動機づけの導入例 上記カリキュラム案の3時間目以降の学習を展開していく例を記載	P8
5	<b>社会科「米づくりに関する学習〈まとめ〉」の授業案</b> 小学校5年生の社会科の指導案（米づくりに関する学習） 社会科の米づくり学習の単元内で、農業農村地域の魅力を学べる動画を使用した授業展開を記載	P13
6	<b>農業遺産地域の取組や問い合わせについて</b>	P16

---

## 本冊子の構成



# 1 | 本冊子と動画の紹介

## 本冊子の活用方法

本冊子は、小学校の教員の皆様が、授業で農業遺産等を扱いながら、農業に関する学習を深めることができるカリキュラム案と授業案をまとめたものです。地域や学校の特徴に合わせて使える案を作成していますのでぜひご利用ください。

## カリキュラム案・授業案の特徴

- ・米づくりの多様な側面を知り、農業の奥深さを学べる
- ・動画などの学習教材を取り入れた授業の流れがわかる
- ・農業遺産や資源循環型農業、SDGsの発展的内容につなげることができる

## 推奨学年／教科

- ・小学校4年生～6年生／総合的な学習の時間
- ・小学校5年生／社会科「米づくりに関する学習」

## 授業で使う学習教材の紹介



### ▶ 動画「ニッポンの農業遺産」(10分24秒)

風の妖精フーちゃんと一緒に日本各地の「農業遺産」を旅しながら学びます。農業遺産地域の伝統的農法とその意義を紹介し、環境や伝統・文化の面との関係性や、これからの環境と人にやさしい農林水産業のあり方を考えさせることをねらいとしています。

※動画に合わせた学習スライドもご利用いただけます



### ▶ 動画「のぞいてみよう! 田んぼの世界」(10分16秒)

田んぼは、お米を作るだけでなく、さまざまな生き物の命を育んだり、水を貯めたり、その結果私たちの暮らしに欠かせない役割を果たしています。田んぼの魅力や生き物の生態、田んぼの機能を魅力的に紹介し、これから学ぶ農業の学習の動機づけになる動画教材です。



### ✎ 学習マンガ「ミーとトラの大冒険 日本の農業と伝統文化」

この学習マンガは、好奇心旺盛なネコの「トラ」がタイムスリップし、それぞれのシーンで出会う小鳥やカエルなどの生き物から、農業や農村の魅力を教えてもらうストーリーです。家庭用学習教材としても利用できます。

教材リンク：<https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/n1/>



## 農業遺産とは

農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に又は我が国において重要な農林水産業システムを認定する制度です。現在、わが国において、国連食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産が15地域、農林水産大臣が認定する日本農業遺産が24地域存在しています。（令和6年2月現在）

## 農業遺産の魅力

農業遺産として認定された地域では、概ね100年以上もの間、脈々と受け継がれてきた伝統的な方法で農業・林業・漁業が営まれています。これらの伝統的な農林水産業は、地域の気候、地形、歴史的背景などに育まれて形成されたもので、独自性が高く、その地域固有の食文化や風土・景観を生み出しています。農業遺産に認定された農林水産業は、自然資源（土壌や森林、水産の資源）を枯渇させない資源循環システムを有しており、環境負荷が少ないため、日本固有の生き物を含む生物多様性の保全にも貢献しています。

農業遺産は、農林水産業の営みそのものであり、社会的、経済的、生態学的な変化に適応しながら進化を続けている「生きている遺産」です。

## 2 年間カリキュラム案

小学校4～6年生の総合的な学習の時間に米づくりを扱う場合、農業農村の魅力を学べる動画を導入で用い、授業を展開するカリキュラム案を記載しています。動画の内容と関連させながら各学校の特色を生かして授業を行うための参考としてご利用ください。実際の圃場での米づくり体験を行う学校での活用例を示しています。バケツ等を用いた稲の栽培等を行う学校では、適宜読み替えて活用ください。「農業遺産」の存在を知ることにより、郷土の環境や文化、景観を守り育みながら農業によって持続的に生計を営むことの大切さに気づくことが期待されます。

### 単元のねらい

- 米の育て方の工夫や米づくりの歴史、田んぼを取り巻く環境、郷土の文化やくらしとのつながり、農業が抱える課題等、自らが立てた学習テーマを探究的に調べ考える活動を通して理解することができる。（知識・理解）
- 学習テーマに対して、自分の考えをまとめたり、調べた内容や自分の考えを深めたりしながら適切に表現することができる。（思考・判断・表現）
- 米づくり体験や米づくりに関する教科学習を通して、学習テーマを主体的に調べ解決しようとするとともにこれからの米づくりのあり方を考えようとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

### 1年間のカリキュラムの流れ

	米づくり体験	総合的な学習の時間・各教科の学習の流れ
4～5月	<p>しろかき 田植え</p> <p>地元の農家の方に教わりながら、しろかきや田植えの体験を行う。</p>  	<p><b>総合的な学習の時間 &lt; 課題の設定 &gt;</b></p> <p>※授業案の詳細はP7を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画『のぞいてみよう！田んぼの世界』を視聴し、米づくり（苗植え、収穫）を行うことを予告する。</li> <li>・米や米づくりに関して、知っていることや調べてみたいこと、疑問について付箋紙等を使って意見を出し合う。</li> </ul> <p>[予想される学習テーマ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①米づくりの方法</li> <li>②田んぼの周辺環境</li> <li>③米を使った郷土料理</li> <li>④農村地域の伝統行事</li> <li>⑤稲わらの利用方法</li> <li>⑥日本の農業の課題</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画『ニッポンの農業遺産』を視聴することによって、さらに意見を広げていく。</li> <li>・学級の意見を集約しながら、総合的な学習の時間の中で取り組んでいく学習テーマを決めていく。</li> </ul>
6～8月	<p>稲を育てる</p> <p>定期的に田んぼを訪れて、稲を観察し、成長記録をつけていく。</p> 	<p><b>総合的な学習の時間 &lt; 情報収集／整理・分析 &gt;</b></p> <p>4～5月で決定したテーマをもとに学習を進める。</p> <p>内容に応じて出張授業・校外学習と組み合わせてもよい。</p> <p>※取組事例・問い合わせ先はP16を参照</p> <p><b>米づくりの方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の農家での体験学習や、米づくりに関する特徴的な取組に関する農業者による出張授業を行う。</li> </ul>



#### 田んぼの周辺環境

※詳細はP8参照

- ・田植えの時に田んぼに水を入れたり、稲の刈入れの時には水を抜いたりする等、田んぼのつくりや水の流れを、実際に現地に行く等して調べる。
- ・田んぼに住む生き物にはどのようなものがあるかを実際に現地に行って観察学習を行う。

#### 米を使った郷土料理

※詳細はP9参照

- ・米を使った郷土料理が地元にあるかどうかを調べ、実際にその料理を作ってみる。
- ・郷土の食材を使った米料理を考え、作ってみる。

#### 農村地域の伝統行事

※詳細はP10参照

- ・身近な地域に米づくりに関連した伝統行事が現存しているか、また、過去に行われていたかを地元の農家や市役所の方々にインタビューしながら調べる。

#### 稲わらの利用方法

※詳細はP11参照

- ・米を収穫した後の稲わらの利用方法について調べ、学校園で肥料として活用したり、稲わらを使って作品を制作したりする。

#### 日本の農業の課題

※詳細はP12参照

- ・農業従事者の急速な高齢化や後継者不足、食料自給率の低下等、日本の農業が抱える課題について調べ、地元の農家の方々にこうした課題についてどのように向き合っているのかをインタビューしてまとめる。



#### 稲の刈入れ 脱穀

稲の刈入れや天日干し、脱穀等を行う。



### 総合的な学習の時間 <まとめ・表現>

#### 収穫祭

- ・地元の農家等お世話になった方々を招いて、収穫した米で料理を作って振る舞う等、感謝の会を行う。

#### 伝統行事の発表会

- ・地元の農業地域に残る伝統芸能（踊り・神輿等）を披露する。

#### 学習発表会

- ・地元の農家や市役所の農業担当の方々等に向けて学習テーマについて調べた内容を発表する。

#### 伝統工芸の制作・販売

- ・稲わらを使って工芸品を制作して、バザー等で販売する。

### 理科から総合的な学習の時間へ

- ・「植物の成長」の学習において学んだことを活かし、バケツやプランター等でよりよく稲が成長できるように日当たりや肥料等の条件を整えながら栽培していく。
- ・小学5年生までに学習したアサガオやヒマワリ、ツルレイシ等の植物と稲の栽培の相違点を考えながら、稲の生育において「なぜ常時水を張る必要があるのか」等の疑問を抱くようにし、稲作特有の栽培方法について調べる。

### 社会科から総合的な学習の時間へ

※授業案の詳細はP13を参照

- ・社会科の「米づくり」に関する学習で学んだことをもとに、地元の米づくりとの相違点を調べてまとめる。

### 3 総合的な学習の時間〈課題の設定〉での授業案

前記カリキュラム案の導入となる1・2時間目の授業における展開例を記載しています。動画を使用しながら米づくりについての興味関心を高める展開になっています。

#### 授業のねらい

米づくり体験やお米をテーマにした学習への興味関心を高めるとともに、単元を通じて学習していくテーマを話し合いながら決めることができる。

#### 授業展開 (45分×2時間展開)

時間	学習活動	指導上の留意点
2分	4～11月の間で米づくりをすることを通して、自分たちが選んだお米に関する様々なテーマで学習を進めていくことを予告する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>米づくりをする場所や方法等を伝え、体験の見通しが持てるようにする。</li> <li>単にお米を作って終わりではないことを強調し、お米を通して様々な学びを行うことを意識づける。</li> </ul>
3分	お米や米づくりについて学習テーマになりそうなことを簡単に発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>米の育て方を調べる。</li> <li>米料理を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでは学習テーマについて多くの意見を求めず、いくつかテーマが出たところで、この他にテーマになりそうなことを動画視聴を通して見つけるよう導く。</li> </ul>
15分	米づくりや田んぼに関する動画『のぞいてみよう！田んぼの世界』を視聴し、感想を発表する。(10:16) <ul style="list-style-type: none"> <li>田んぼにはいろいろな役割があることがわかった。</li> <li>実際に田んぼに行ってみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を見ることにより、学習テーマが広げられるようにする。</li> <li>動画『のぞいてみよう！田んぼの世界』 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=CVyRjZ9o_gs">https://www.youtube.com/watch?v=CVyRjZ9o_gs</a></li> </ul>
25分	米づくりや米に関することで「知りたいことや学習したいこと」「疑問」を個々に付箋紙に書き、グループ内で個々の意見を発表しながら、模造紙にテーマごとに付箋紙を貼ってまとめていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「知りたいことや学習したいこと」は黄色、「疑問」は水色というように色分けする。</li> <li>テーマごとに、以下の〔予想される学習テーマ〕のように分類していく。</li> <li>ICT活用を図る場合には、ホワイトボードツール等を活用するとよい。</li> </ul>
15分	日本各地の米づくりには様々な取り組みがあること(「農業遺産」)を知らせ、動画(10:24)を視聴し、感想を発表する。 <p>※全編視聴ではなく、米づくりに関連するクリップ(リンク内にある2,3の動画)のみを視聴してもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業を営むだけでなく、生き物などの環境も大事にしている。</li> <li>昔の人が何十年もかけて努力してきたことを今も受け継いでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農業遺産」とは「昔から続いている農業やその周りにある文化や環境、景観などを大切に、持続可能な農業を実践するための制度」(小学生向け説明)</li> <li>動画『ニッポンの農業遺産』 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=7HCucnt-VMk">https://www.youtube.com/watch?v=7HCucnt-VMk</a></li> <li>動画『ニッポンの農業遺産』クリップ <a href="https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/">https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/</a></li> </ul>
10分	動画の内容を踏まえ、新たに「知りたいことや学習してみたいこと」「疑問」を付箋紙に書いて、模造紙に加えていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに出たテーマについては模造紙に追加していく。</li> </ul>
20分	模造紙の内容を学級全体で共有し、米づくりを通して学習するテーマをまとめていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の学習テーマは固定ではなく、学習を進める中で新たな学習テーマが生まれる場合があることを伝えておくとうい。</li> </ul>

#### 予想される学習テーマ

- ①米づくりの方法(アイガモ農法・陸稲等)
- ②田んぼの周辺の環境(生き物・水・あぜ)
- ③米を使った郷土料理
- ④農村地域の伝統芸能(祭り・神楽等)
- ⑤稲わらの利用方法(飼料、わら細工等)
- ⑥日本の農業の課題(食料自給率等)

◎学校特有のテーマで行いたい場合には、以降の授業の中で共通テーマを決めて全体で取り組み、その他のテーマは個別に追究する方法も考えられる。

◎近くの農家から田んぼを借りることが難しい場合は、「JAグループが実施している「お米づくりに挑戦(やってみよう!バケツ稲づくり)」にて米づくり体験を行うことができる。<https://life.ja-group.jp/education/bucket/>

## 4 | 総合的な学習の時間〈情報収集／整理・分析〉

各学校では、米づくり体験と並行して、田んぼ周辺の環境や米料理、伝統芸能等々、地域の特色を活かして、このようなテーマを中心に学習を進めることもできます。そこで、総合的な学習の時間の1・2時間目の授業を実施した後に、各学校で重点を置きたいテーマに応じて学習を展開するための動機づけの導入例を以下に示しました。必要に応じてご活用ください。

### 導入：田んぼの周辺の環境を中心に学ぶ

#### 1 2枚の写真を見せて、以下の問いかけをする。



田んぼの風景を見比べることができる画像を使用する。

「5月と9月の田んぼの風景の写真です。どちらが5月でしょうか？」

→ 左が5月

「5月と9月の田んぼの様子が変わっているところはどこですか？」

→ 5月にあった田んぼの水が9月には無くなっているところ

#### 2 田んぼの上空写真を見せ、田んぼについて考えさせる。



#### 【探究課題等】

「5月の田んぼの水はどこからやって来て、8月まであった田んぼの水はどこに行ってしまったのでしょうか？」

◎これ以降は学校の特色を活かしながら、以下のような活動につなげることが考えられる。

田んぼのつくりや、そこに住む水辺の生き物がどのように生育しているか等、田んぼを中心とした環境について実際に現地に行って調べ、まとめていく。

#### <参考資料>

- ・動画：田んぼの水はどこからやってくる（農林水産省） <https://www.youtube.com/watch?v=E-MAeZIGgs8>
- ・農業のめぐみ：田畑は作物をつくるだけじゃない（農林水産省） [https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1907/spe2\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1907/spe2_01.html)
- ・生き物を育む田畑のめぐみ（農林水産省） [https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1907/spe2\\_02.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1907/spe2_02.html)
- ・農業遺産：新潟県佐渡市「トキと共生する佐渡の里山」 [https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs\\_3\\_010.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs_3_010.html)  
水田の水を抜く時期にも生き物の逃げ場となる水辺「江」をつくっている。
- ・農業遺産：滋賀県琵琶湖地域「森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」 <https://www.pref.shiga.lg.jp/biwako-system/>  
田んぼで産卵する魚が水田と川を行き来できるよう、魚道を設置している。
- ・農業遺産：宮城県大崎地域「持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム」 <https://osakikoudo.jp/>  
冬に飛来する渡り鳥のねぐらとなるよう、冬にも田んぼに水を張っている。

## 導入：米を使った郷土料理を中心に学ぶ

### 1 郷土料理について説明する。

郷土料理というのは、その地域に根付いた食材を使い、その地域独自の調理方法で作られ、地域で広く受け継がれてきた料理。

### 2 以下の問いかけをして、全国の郷土料理の写真を1枚ずつ順番に計4枚見せる。



愛知県・岐阜県・長野県：五平餅



鹿児島県・沖縄県：みき



滋賀県：ふなずし



福岡県：かしわめし

「全国の郷土料理の写真を4つ見せます。すべて同じ食材が使われています。何が使われているのでしょうか？」  
(1枚ずつ順番に見せる) → 米

「米を使った郷土料理は全国各地にあります。」

### 3 郷土料理について考えさせる。

#### 【探究課題等】

「自分たちの県（市）で、米を使った郷土料理にはどのようなものがあるだろうか？」

◎これ以降は学校の特色を活かしながら、以下のような活動につなげることが考えられる。

- ・米を使った郷土料理が地元にあるかどうかを調べ、実際にその料理を作ってみる。
- ・子ども独自で郷土の食材を使った米料理を考え、作ってみる。

#### <参考資料>

- ・うちの郷土料理（飯料理） 次世代に伝えたい大切な味  
[https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k\\_ryouri/search\\_menu/type/rice.html](https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/type/rice.html)
- ・しんまいにんじゃこつぶのおこめしゅぎょう（JA全農）  
[https://noricenolife.jp/okomeninja/#target/page\\_no=1](https://noricenolife.jp/okomeninja/#target/page_no=1)

#### <写真提供・出典>

- ・五平餅  
農林水産省「うちの郷土料理」  
画像提供元：あいちの郷土料理レシピ50選
- ・みき  
農林水産省「うちの郷土料理」
- ・かしわめし  
農林水産省「うちの郷土料理」

## 導入：農村地域の伝統行事を中心に学ぶ

### 1 農村地域の中には伝統行事が残っていることを話す。

伝統行事とは、決まった時期に長年続く行事で、その地域では伝統となっているものを意味する。

### 2 次の3枚の写真を見せて、以下の発問を行う。

#### 【発問】

「3枚の写真はそれぞれ異なる地域で行われている稲作に関する伝統行事ですが、行われている時期が違います。写真を稲作の流れの順番に並べてみましょう。」



春：壬生の花田植

毎年6月広島県北広島町で「壬生の花田植」が行われます。花田植は、稲作の平穏と豊穣を祈るとともに、田植え作業を楽しくしようと生まれた行事で、壬生の花田植は、西日本に残る花田植としては最大の規模を誇り、初夏を彩る壮大な田園絵巻として知られています。



夏：御田植神幸式

御田植神幸式は、国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つで、神様が稲の生育状態を見て回る、阿蘇神社最大の祭事です。一般的には「おんだ祭り」と呼ばれています。

神様たちを乗せた4基のみこしを中心に、神様の食事を運ぶ全身白装束の宇奈利（うなり）、早乙女、馬に乗った神職らからなる約200人の行列が昼前に神社を出発。田歌に合わせてゆっくりと田園の中を練り歩き、夕方、神社に戻ります。



冬：砂かけ祭

奈良県河合町の廣瀬大社では、毎年2月11日豊作を願って砂をかけ合う奇祭「砂かけ祭」が開催されます。境内に忌竹を立てしめ縄を張って御田を設け、氏子が扮した牛と田人が鋤く所作をし、松葉でつくった苗を植えます。参拝の人々は牛役などに砂をかけ、田植えに必要な雨が十分に降るように祈願します。砂を盛んにかけ合うほど、田植えの時期に雨がよく降り、豊作になるとされています。

### 3 伝統行事に込められた思いについて考えさせる。

#### 【探究課題等】

「3つの伝統行事には、地域の方々にとってある共通する思いがあります。それはどんな思いでしょうか？」

→ 豊作を願っている

◎これ以降は学校の特色を活かしながら、以下のような活動につなげることが考えられる。

- ・身近な地域に米づくりに関連した伝統行事が現存しているか、また、過去に行われていたかを地元の農家や市役所の方々にインタビューしながら調べる。
- ・過去に行われていた伝統行事を再現する。

#### <参考資料>

- ・農村の伝統祭事（農林水産省）

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/nougyo\\_kinou/pdf/maturi\\_zentai.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/nougyo_kinou/pdf/maturi_zentai.pdf)

#### <画像提供>

壬生の花田植え：（一社）北広島町観光協会

## 導入：稲わらの利用方法を中心に学ぶ

### 1 以下の問いかけをして、写真を順番に見せていく。



バイオマス発電



飼料



肥料



畳（畳床）

「これから見せるものにはある共通するものが使われています。それは何でしょうか？」→稲わら

#### 【発問】

ほかに、稲わらはどのようなことに使われているのでしょうか？

→しめ縄、正月飾り、わら焼き（料理）、敷きわら、草履 等

### 2 SDGsにより持続可能な社会をつくっていく重要性や、SDGsの目標12「つかう責任、つくる責任」の関連する内容について触れる。

稲わらは、有効利用されず田んぼへのすき込みや焼却されているものも多くある。

他方、牛を飼育している農家からは、国産の飼料用稲わらを求める声も多い。ゴミではなく、資源として利用することが大切であるという気づきを与える。

### 3 米づくりが終わった後、稲わらをどのように使うかを考えさせる。

#### 【探究課題等】

「米を収穫した後に出る稲わらをリサイクルするには、どのようにしたらよいでしょうか？」

◎これ以降は学校の特色を活かしながら、以下のような活動につなげることが考えられる。

- ・米を収穫した後の稲わらの利用方法について調べ、学校園で肥料として活用したり、稲わらを使って作品を制作したりする。

#### <参考資料>

- ・稲わらについて（農林水産省）  
[https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l\\_siryoinawara.html](https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryoinawara.html)
- ・農業系バイオマス（稲わら）活用検討プロジェクト（農林水産省）  
[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/b\\_sangyo\\_toshi/attach/pdf/b\\_kousou\\_all-22.pdf](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/b_sangyo_toshi/attach/pdf/b_kousou_all-22.pdf)
- ・SDGsの目標12「つくる責任 使う責任」（日本ユニセフ協会）  
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/12-responsible/>

## 導入：日本の農業の課題を中心に学ぶ

### 1 食料自給率について説明する。

「食料自給率とは、日本で食べられている食べ物が、どのくらい国内で作られているかを表した数字」

### 2 食料に関するクイズを出す。

「もし、海外からの輸入が止まって日本で作られた食べ物しか食べられないとしたら、一週間に一度くらいしか食べられなくなってしまう物があります。どれでしょう。」

①食パン（原料は小麦） ②牛肉 ③エビ ④とうふ（原料は大豆） ⑤米

→（答え）⑤の米以外すべて

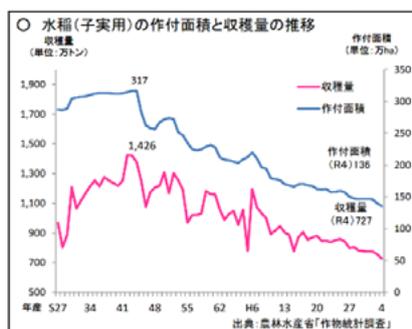
### 3 海外からの輸入が止まった際の1日の食事について話し合う。

「もし海外からの輸入が止まってしまったら、わたしたちの1日の食事はどのようになってしまうのかを考えてみましょう。」

### 4 食料輸入が止まった場合の献立の例を紹介する。



### 5 日本にとって米が重要な食べ物であることに着目させた後、米の生産についてのグラフを提示する。



「このグラフからどのようなことが読み取れるだろうか？」

→ 米の作付面積とともに収穫量が年々減少していることを知る。

### 6 米の生産量の低下について考えさせる。

【探究課題等】「日本の米の生産量が低下しているのはなぜだろう？」

◎これ以降は、以下のような活動につなげることが考えられる。

- ・米の生産量の低下を調べる中で、農業従事者の急速な高齢化や後継者不足等、日本の農業が抱える課題について調べ、地元の農家の方々にこうした課題についてどのように向き合っているのかをインタビューしてまとめる。

<参考資料>

- ・いちばん身近な「食べもの」の話 (農林水産省) [https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/pdf/tabemono\\_pamph19.pdf](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/pdf/tabemono_pamph19.pdf)
- ・数字で学ぶ 日本の食料 (農林水産省) [https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2302/spe1\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2302/spe1_01.html)
- ・米の生産について (農林水産省) <https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/inasaku.html>
- ・消費者の部屋：子どもそうだん (農林水産省) [https://www.maff.go.jp/j/heya/kodomo\\_sodan/index.html](https://www.maff.go.jp/j/heya/kodomo_sodan/index.html)

## 5 社会科「米づくりに関する学習〈まとめ〉」の授業案

社会科の米づくり学習の単元で、農業農村地域の魅力を学べる動画を用いて授業を展開する案を記載しています。  
 ※以下指導案では庄内平野と記載しておりますが、学習内容に即して発問を変更してください。

### 授業のねらい

学習してきた米づくりを「農業遺産」地域と比較しながら振り返ることにより、各々の農業の特徴を理解するとともに、農業に携わる人たちの工夫や努力により食料生産が支えられていることに気づくことができる。

#### 授業展開 (45分)

時間	学習活動	指導上の留意点
5分	<p>これまで庄内平野の米づくりについてどのような学習をしてきたかを簡単に振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地形や気候」</li> <li>・「米づくりの方法や工夫」</li> <li>・「農家を支える人々」</li> <li>・「消費者への米の届け方」</li> <li>・「農業の課題」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが米づくりについて調べたノート等をもとに学習内容を振り返るようにする。</li> <li>・子どもたちから出てきた意見を左のようなカテゴリーに分けて、簡単に板書していく。</li> </ul>
3分	<p>庄内平野以外の地域ではどのように米づくりを行っているかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山あい等の環境が異なる地域の米づくりについて投げかける等して、他の地域の米づくりに目を向けるようにする。</li> </ul>
12分	<p>「農業遺産」について軽くふれた上で動画『ニッポンの農業遺産』（10分24秒）を視聴する。</p> <p>※全編視聴ではなく、米づくりに関連するクリップ（リンク内にある2,3の動画）のみを視聴してもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業遺産」に認定されている地域があり、そこではどのような農業がおこなわれているかを想像させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によって農業の方法が異なることを伝え、庄内平野と「農業遺産」地域とではどこが異なっているかを見つけながら視聴するように促す。</li> <li>・動画『ニッポンの農業遺産』  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=7HCucnt-VMk">https://www.youtube.com/watch?v=7HCucnt-VMk</a></li> <li>・動画『ニッポンの農業遺産』クリップ  <a href="https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/n1/">https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/n1/</a></li> </ul>
10分	<p>「農業遺産」地域ではどのような農業が行われていたかを想起しながら、①～⑥の項目にしたがってワークシート（左枠）に書き込む。</p> <p>①地域や気候                  ②米づくりの方法                  ③生産性を高める工夫                  ④農家を支える人々                  ⑤消費者への米の届け方                  ⑥農業の課題</p> <p>【子どもたちへの説明】                  「農業遺産」とは「昔から続いている農業やその周りにおける文化や環境、景観などを大切に、持続可能な農業を実践するための制度」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布し、教員と共に動画の内容を振り返りながら、ワークシートの表に書き込む。</li> <li>・ワークシートの項目の中には動画に含まれていないものがあるため、その箇所は空欄にするか、以下リンクの情報を示す。</li> <li>・滋賀県「魚のゆりかご水田プロジェクト」  <a href="https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/nousonshinkou/18537.html">https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/nousonshinkou/18537.html</a></li> <li>・マンガ「世界に認められた山腹水路」  <a href="https://takachihogo-shiibayama-giahs.com/wp-content/uploads/2020/07/H30_%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%82%AB%E3%82%99%E6%9C%80%E7%B5%82%E7%89%88.pdf">https://takachihogo-shiibayama-giahs.com/wp-content/uploads/2020/07/H30_%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%82%AB%E3%82%99%E6%9C%80%E7%B5%82%E7%89%88.pdf</a></li> </ul>
10分	<p>庄内平野の米づくりで学んだことをもとにしながら、①～⑥の項目にしたがってワークシート（右枠）に書き込み、全体で内容を共有していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記入については学級の実態に合わせて個人で行っても、グループで協力しながら行っても構わない。</li> </ul>
5分	<p>ワークシートをもとに庄内平野と「農業遺産」地域の米づくりを比較しながらこれからの農業のあり方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業の担い手不足」「環境への配慮」「食料自給率の低下」等日本の農業の課題にも触れながら、今後どのようにすれば農業が維持発展することができるかに着目するようにする。</li> </ul>

「農業遺産」地域と「庄内平野」の米づくりを比べ、  
それぞれの特徴を見つけよう。

まとめるポイント	農業遺産地域	庄内平野
①地域や気候		
②米づくりの方法		
③生産性を高める工夫		
④農家を支える人々		
⑤消費者への米の届け方		
⑥農業の課題		

これまでの学習をふまえ、あなただったら、これからの農業をどのような方向で進めますか？

「農業遺産」地域と「庄内平野」の米づくりを比べ、  
それぞれの特徴を見つけよう。

まとめるポイント	農業遺産地域	庄内平野
①地域や気候	琵琶湖地域の例 ・琵琶湖の周辺に田畑が広がっている ・田んぼと湖が川を通じてつながっている 高千穂郷・椎葉山地域の例 ・山間にあり、平地が少ない ・遠くの川から水路で水を引いている	・雪が多く、雪解け水などが豊富 ・夏の日照時間が長い ・昼と夜の寒暖差が大きい ・平野が広がっている
②米づくりの方法	琵琶湖地域の例 ・湖の生き物に配慮し、化学肥料や農薬を減らして栽培している 高千穂郷・椎葉山地域の例 ・山間の棚田で米を作っている ・狭いほ場が多いため小型機械を使っている	・広い平地で大型の農業機械を使い、田起こし、しろかき、田植え、稲刈りなどを行っている ・稲の生育状況に合わせて水を張ったり水を抜いたりしている
③生産性を高める工夫	琵琶湖地域の例 ・化学肥料や農薬を減らすことで、付加価値の高い米を作っている 高千穂郷・椎葉山地域の例 ・水路を作って遠くの川から水を引くことで、稲作ができるようにした	・ほ場整備によって広い長方形の田んぼにすることで、大型の機械を使いやすくしている ・用排水路を整備することで水管理しやすくしている ・病気や気候に適応した品種を栽培している
④農家を支える人々	琵琶湖地域の例 ・NPO法人などが地域住民とともに、魚が田んぼを行き来するための魚道を設置したりしている 高千穂郷・椎葉山地域の例 ・土地改良事業団体や地域住民が協力して水路の維持管理をしている	・試験場では消費者のニーズや地域の気候などに適応した品種を育成している ・JAでは農家に米作りに関する助言をしている
⑤消費者への米の届け方	琵琶湖地域の例 ・「環境こだわり農業」「環境こだわり米」の認証制度を設け、販売促進につなげる 高千穂郷・椎葉山地域の例 ・棚田やはざ掛けて作られた米であることをPRして消費者に届ける	・JAや卸売業者に出荷し、スーパーや外食などを通じて消費者に届ける ・農家がインターネット販売などで直接消費者に届ける
⑥農業の課題	(庄内平野の課題に加えて) 高千穂郷・椎葉山地域の例 ・水路や畦畔の管理に人手が必要(棚田は平地よりも畦畔面積が大きい) ・鳥獣被害(特に中山間地域に多い)	・高齢化による担い手不足 ・米価下落による収入減少 ・肥料、燃油などの資材価格の高騰 ・自然災害(洪水、水不足、高温障害など)

これまでの学習をふまえ、あなただったら、これからの農業をどのような方向で進めますか？

## 6 農業遺産地域の取組や問い合わせについて

### 農業遺産地域における取組事例

#### 宮城県大崎地域（大崎地域世界農業遺産推進協議会）

大崎地域は古くから水田農業地帯として発展してきました。冷たく湿った季節風「やませ」による冷害や、地形が原因で起こる湯水や洪水などの問題が人々を悩ませてきましたが、安定的に水を確保するための水管理の仕組みや農業技術を発達させ、災害を耐え抜く知恵が現在に受け継がれているのが「大崎耕土」です。

大崎地域世界農業遺産推進協議会では、地域内小学校を対象に、調べ学習用副読本を活用しながら、大崎耕土の知恵の共有や継承を目的とした出張授業を実施しています。

また、大崎耕土に点在し、多様な動植物が存在する屋敷林「居久根（いぐね）」での生物モニタリング調査や、居久根を保全・継承していくためのボランティア活動も実施しています。

#### ●副読本

[https://osakikoudo.jp/wp-content/uploads/2023/03/osakikoudoFukudokuhon2023PDF\\_0315.pdf](https://osakikoudo.jp/wp-content/uploads/2023/03/osakikoudoFukudokuhon2023PDF_0315.pdf)



#### 滋賀県琵琶湖地域（せせらぎの郷）

近隣の小学校高学年を対象にした出張授業で、「魚のゆりかご水田プロジェクト」の取組を紹介しています。

かつて琵琶湖周辺で見られた“田んぼで魚たちが飛び跳ねる光景”の復活を目指し、滋賀県が進めているのが、人や生きものが安心して暮らせる田んぼの環境を取り戻す取り組みである「魚のゆりかご水田プロジェクト」です。

このプロジェクトでの具体的な取組を紹介することで、生きものが育つ環境や命の尊さについて学ぶことができます。

また、実際のゆりかご水田を見学できる校外学習も実施しています。

#### ●魚のゆりかご水田プロジェクト

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/nousonshinkou/18537.html>



### 農業遺産地域における出張授業・校外学習の問い合わせ先

米づくりの学習に関する出張授業・校外学習の取組を行っている農業遺産地域は下記のとおりです。各実施主体において場所、時期、費用負担等の条件がありますのでご注意ください。

地域	出張授業	校外学習受け入れ	対応者	連絡先 (電話番号)	連絡先 (E-mail)	備考
岩手県東稲山麓地域	○		岩手県南広域振興局農政部	0197-22-2841	BD0004@pref.iwate.jp	東稲山麓地域の日本農業遺産認定内容について対応可能。
宮城県大崎地域	○	○	NPO法人シナイモツゴ郷の会	090-1377-2844	yy0910@ktj.biglobe.ne.jp	シナイモツゴなどの水辺の自然を復元する取組を紹介。
	○	○	NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ	0229-38-1401	makomo@aqua.famile.ne.jp	渡り鳥と田んぼの関係について対応可能。

宮城県大崎地域	○	○	NPO法人鳴子の米プロジェクト	0229-29-9436	komepro181@yahoo.co.jp	詳細は要相談。
	○	○	大崎地域世界農業遺産推進協議会	0229-23-2281	osaki-giahs@city.osaki.miyagi.jp	世界農業遺産「大崎耕土」に関する内容について対応可能。
埼玉県比企丘陵地域	○	○	滑川町農泊推進協議会 (滑川町産業振興課内)	0493-56-6906	na3411601@town.namegawa.lg.jp	詳細は要相談。
新潟県中越地域	○	○	長岡・小千谷「錦鯉発祥の地」活性化推進協議会 (事務局：長岡市農林水産部農水産政策課)	0258-39-2223	nousei@city.nagaoka.lg.jp	詳細は要相談。
富山県氷見地域	○	○	氷見市教育委員会文化振興課	0766-91-2249 (ひみラボ水族館)	himilabo@p1.cnh.ne.jp	校外学習は「ひみラボ水族館」にて4月～10月可能。出張授業は富山県内であれば可能。県外の場合は要相談(旅費必要)。
滋賀県琵琶湖地域	○	○	滋賀県農政課企画・世界農業遺産係	077-528-3825	shiga-giahs@pref.shiga.lg.jp	滋賀、京都、大阪は出張授業が可能。その他都道府県は要相談。
	○	○	せせらぎの郷 (代表 堀彰男)	090-9214-0055	ayao@hori55.com	近畿2府4県は出張授業可能(旅費は要相談)。校外学習は、4月、5月、9月以外は対応可能。
	○	○	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会 (小林)	0748-45-0603	kurimi-dezaike@e-omi.ne.jp	

その他、子どもの農山漁村体験を受け入れている地域・団体の連絡先、体験事例等については、「子供の農山漁村体験支援サイト」(<https://furusato.jp/>)でも紹介しています。

## 発行

2024年3月発行

### 構成・執筆

特定非営利活動法人企業教育研究会

### 制作・発行・問合せ先

株式会社 NHKエデュケーショナル  
<https://www.nhk-ed.co.jp/>

農林水産省補助事業